

令和2年(2020年)3月16日
山口県病虫害防除所

1 害虫名 : スモモミハバチ (仮称) (*Monocellicampa pruni* Wei)

2 発生作物名 : スモモ (露地)

3 特殊報の内容 新発生

4 発生経過

(1) 確認年月日 : 令和2年1月14日

(2) 発生地域 : 山口市

(3) 確認の経緯

令和元年5月上旬、山口市の露地スモモにおいて幼果内部をハバチ類幼虫が食害する被害が発生した。同様の被害がその後県内各地で確認され、この時得られた幼虫および、令和2年1月中旬に被害樹の樹冠下土中から捕獲した越冬中の蛹を室内飼育して得た成虫を神戸植物防疫所に送付し、同定を依頼したところ、国内で発生報告がないスモモミハバチ (仮称) (*Monocellicampa pruni*) であることが明らかになった。

5 本虫の特徴

(1) 被害の状況

幼虫は幼果内部を食害する(図1)。糞は果実内部に溜まり、外へは排出されない。被害果を割ると、内部の空洞に幼虫と比較的乾燥した細粒状の糞が見られる。被害果径は大きくとも1cm程度と小さく、5月上中旬には正常果と生育に大きな差が出るため、見分けることができる(図2)。また、被害果表面には幼虫の侵入孔と思われる小さな穴が認められる(図3)。被害果は無防除園に多く見られ、多い場合は被害果率がほぼ100%に至ることもある(図4)。

(2) 形態

老齢幼虫は体長10mm程度で全体的に白色で、腹脚は退化してほぼ突起状となる(図1)。成虫の体長は6mm程度と小型である。体色は全体的に黒色であり、翅も暗色である(図5)。

(3) 生態

寄主はスモモのみで、年に1回発生する。中国では開花初期に一斉に羽化し、幼果のがくや花托の表皮に産卵することが知られる。孵化した幼虫は果実内部に食入し、仁を食べて内部に糞を蓄積する。近縁のナシミハバチと異なり、複数の果実を渡り歩いて食害することはなく、幼虫の成育は1つの果実内部で完結する。約30日後に果実に穴を開けて脱出し(図6)、土中で土繭を作って夏、秋を経過し翌春に蛹化する。

(4) 分布

中国および韓国

6 防除対策

令和2年3月現在、本虫に対する農薬登録はない。

※慣行防除を実施している園地では被害果が発生していない、または非常に少ないことを確認している。



図1 幼果内部を食害する幼虫



図2 正常果と被害果 (5月8日)



図3 幼虫侵入孔 (円中央)



図4 甚発生状況 (全て被害果)



図5 成虫 (背面)

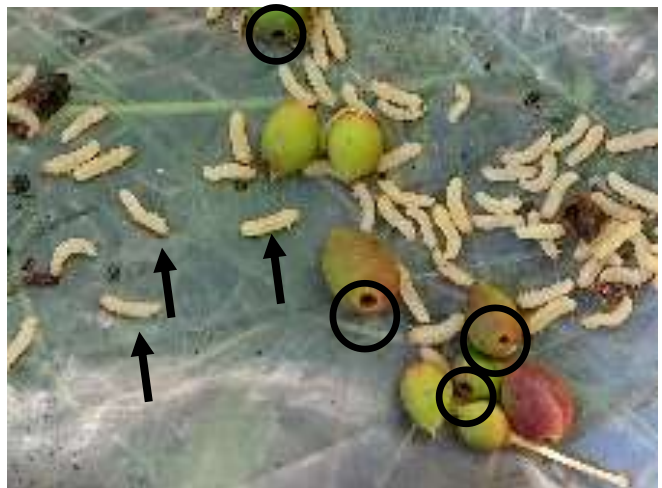


図6 被害樹下のビニールに落下した幼虫と被害果 (円内が脱出孔、矢印が幼虫)

【参考文献】

康总江・石宝才・朱亮・魏书军(2014) 「李单室叶蜂发生规律初步观察」中国昆虫学会 2014年学术年会论文摘要集